

オジロワシの概要

1. 分類

- ・タカ目タカ科 オジロワシ
(学名 *Haliaeetus albicilla*)
- ・絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2012)



2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・全長約 69～92cm、翼開長 200～245cm の大型のワシ類
- ・海岸や湖沼周辺、河川流域の大木に営巣
- ・海鳥類、スケトウダラ等の海産魚類を捕食。漁船が捨てる雑魚も餌にしている
- ・冬期は本州北部から中部にも渡り、まれに九州、琉球列島などに飛来する

3. 分布状況

- ・ヨーロッパ、西アジア、東アジアに分布
- ・極東における繁殖地はカムチャツカ半島、サハリン、北海道等

4. 現在の生息個体数

- ・北海道と本州北部で越冬するオジロワシは約 550～850 羽 (オジロワシ・オオワシ合同調査グループ及び保護増殖事業による調査)。
- ・極東全体の総個体数は不明
- ・北海道の営巣地は 90 年代に入って増加傾向にあり、約 170 ヶ所が確認される一方、繁殖成績は下降傾向にある

5. 生息を脅かす要因

- ・近年 10 年間の主要な傷病要因としては、風車事故、交通事故、鉛中毒の順であるが、風力発電施設への衝突は今のところ有効な回避策がない
- ・鉛弾にて捕殺されたエゾシカの残滓を鉛弾とともに採餌することによる鉛中毒 (道告示による鉛弾規制後も依然として中毒個体が発生)
- ・事故死したエゾシカを路上や線路上で採食することによる二次被害 (衝突死)
- ・森林伐採や道路開発などによる営巣地の減少
- ・河川、湖沼、海岸の改修・開発による餌資源の減少
- ・カメラマンやハンターの繁殖地への立ち入り

6. 保護のための取組

- ・平成 5 年国内希少野生動植物種に指定、平成 17 年保護増殖事業計画 (文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省) を策定
- ・越冬状況、営巣状況調査等を実施
- ・人為的餌資源 (漁業活動から出る雑魚等)、自然性餌資源の把握
- ・人為的餌資源の量や分布状況が海ワシ類の生息に多大な影響を与えていることが事業成果から推測
- ・鉛中毒防止のため、道内での鉛弾の使用規制等を実施
- ・海ワシ類の列車事故防止のため、JR と継続して情報交換を実施

(現在の取組)

- ・オオワシ・オジロワシ合同調査グループと越冬状況調査を実施
- ・釧路湿原野生生物保護センターにおいて、傷病個体を収容・治療・リハビリ・野生復帰させるとともに、事故原因の究明を行い、事故対策について事業と協議

7. 他法令による保護の状況

- ・昭和45年、天然記念物に指定。

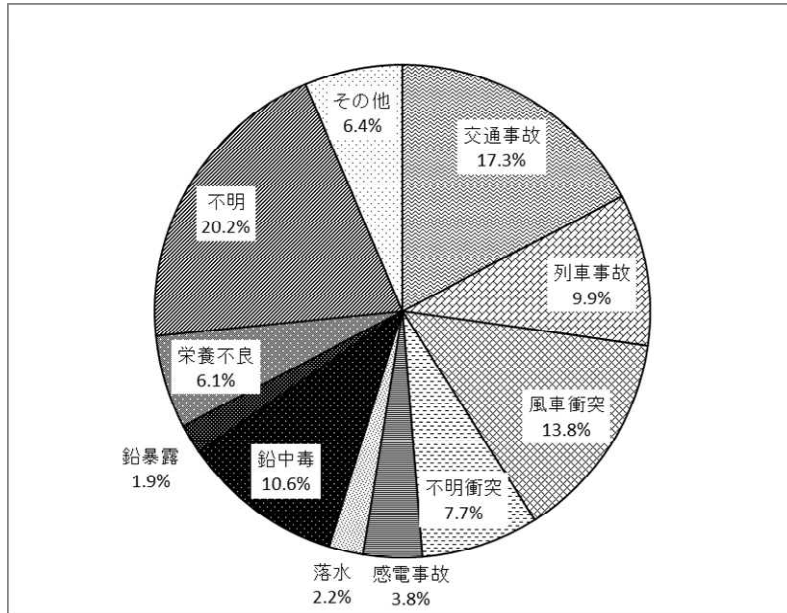


図1 オジロワシ収容要因別割合 (H12-27年度)

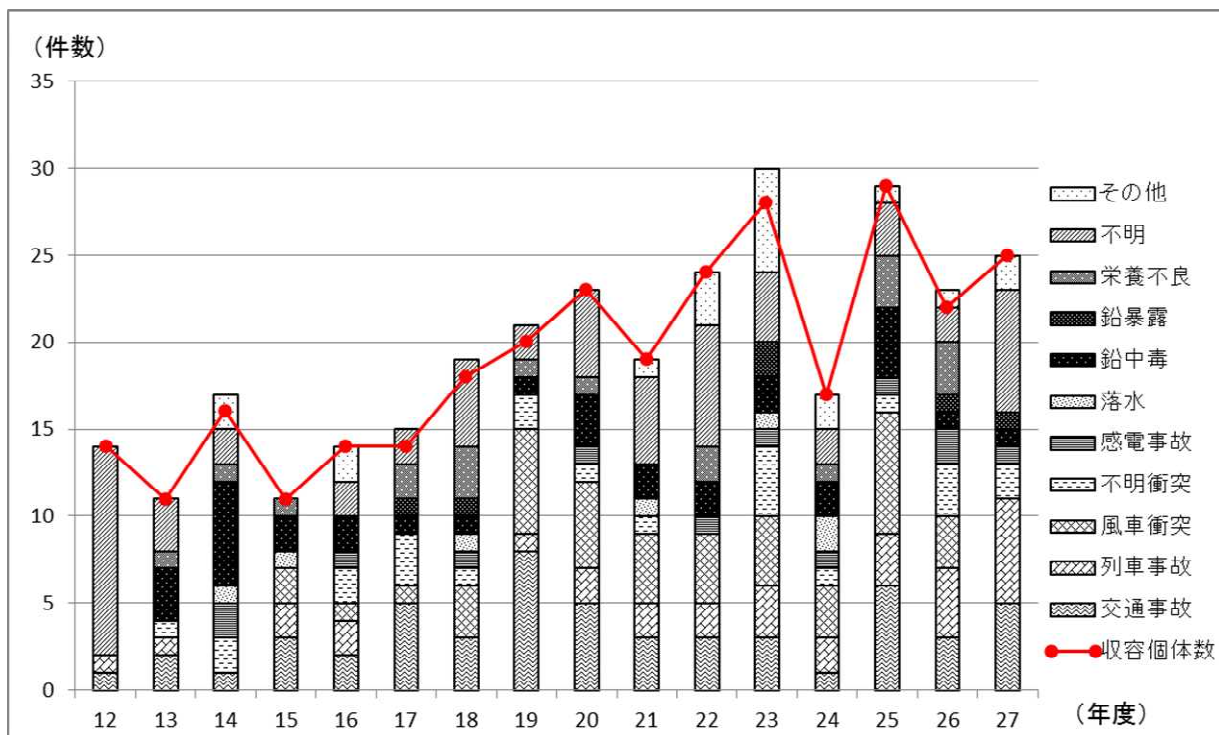


図2 オジロワシ年度別収容件数 (H12-27年度)